# 1. 小学校 教員養成・教員研修コア・カリキュラム

# (1) 教員養成

今回実施した調査では97大学から回答を得、その過程における英語教育に関して改善を望む 内容(初等調査Q12)としては、「カリキュラム」と「指導内容」が大半を占める。また協力者 から、英語力向上、学習指導要領の理解、子どものことばの学び方の理解、模擬授業等の実践的 な内容を重視する意見があがった。

このような状況を踏まえ、以下に小学校外国語活動・外国語教育担当の教員養成を基本的に必要な「教職に関する科目」(2単位程度以上)、「教科に関する科目」(2単位程度以上)のコア・カリキュラム(試案)を提案する。

# 教員養成についての現状と課題

# (1) 求められる英語力について【教科に関する科目】

# ① 学生の英語力向上の必要性

- ○初等調査「英語教育について改善した方がいいと思うことはありますか(Q13)」について、「はい」は72、「いいえ」は18であった。「はい」のうち外国語コミュニケーションについて述べているものが過半数(37)を占める。英語力不足への危機感を表していると解釈することができる。
- ○小学校の教師であっても、質の高いインプットを与えられることは重要。量も大事だが、質も 大切である。(有識者)
- ○マザーグースやナーサリーライムは、音韻認識、プロソディーの獲得に有効である。(有識者)
- ○現状では、小学校教員の多くは英語を運用しきる能力がないと思われる。
- ○一般的な英語力と授業で必要な英語力の整理が必要である。
- ○授業で必要な英語力は、児童・生徒の認知力・英語力に応じて英語を調整しながら使用する力 や英語で授業の準備や ALT 等と協同して指導にあたることのできる力、児童・生徒の力を見 極めながら、適切な英語を用いることができる力、学校に関係する語彙や表現方法の知識及び 活用が求められる力である。 (会議録)

## まとめ

- ●英語力向上が課題である。
- ●授業を行うために必要な英語力を伸ばすことが重要である。
- ●マザーグースは音韻認識、プロソディーの獲得に有効である。

# ① 子どもの第二言語習得についての知識・理解の必要性

- ○母語でも聴くことは訓練が必要である。英語でもインプットが大切である。(有識者)
- ○反復模倣は言語獲得には必要だが、文脈と意味のある中で行われなければ効果がない。単純な Repeat after me. は小学生には向かない。(有識者)
- ○うわべだけ楽しんで、無理やり言わせている実践が多い。(有識者)
- ○母語である日本語について一定の理解が必要、英語のしくみ・働きも理解していないといけない。日英の音韻体系の違いを知っていることが必要。(有識者)
- ○コミュニケーションについては、母語と共通の部分が多い。(有識者)
- ○英語はEFL環境にある日本人が学ぶ言語としてはすぐには身につかない言語であること を理解しておくことが必要である。そのために第二言語習得の知見が必要である。(有識者)
- ○中学生とは違う小学生のことばの身につけ方を理解していることが肝要である。(会議録)
- ○児童が最も生き生きとしているのは本当のコミュニケーションをしているとき(自分のこと を話しているとき)である。(会議録)
- ○教科教育法の授業では、児童の学びの特徴を踏まえた上で、模擬授業を行うことが重要である。(会議録)
- ○外国語活動の趣旨や英語の学び方を踏まえ、受信から発信へ、音声から文字へという流れ (「聞くこと」→ 「話すこと」・「読むこと」→「書くこと」)を大切にすることを求めたい。(会 議録)

## まとめ

- ●子どもの言語習得についての理解が重要である。
- ●インプットの重要性を理解することが重要である。
- ●暗記型の指導にならないように留意することが重要である。
- ●国語教育との連携が重要である。

### ② 現在の小学校外国語教育の理解の重要性

- ○教育委員会調査で「採用の時点で小学校の教員志望者が身につけていることが重要な項目 (Q50)」を尋ねたところ、最も回答が多かったのは「学習指導要領の理解」、つづいて「個々の児童の学習状況や特性の理解」であった。この分野についての知識の重要性が示唆された結果と読み取ることができる。
- ○学生に目指す子ども像があるとよい。目標を明確にすることが重要である。(会議録)
- ○今後、学校や児童・生徒の多様化が進むと考えられる。例えば、小規模校や複式学級が増えており、外国籍児童・生徒や特別支援を必要とする児童・生徒への指導の機会が増えていく。 多様な学校や児童・生徒の対応について、学ぶ必要がある。(会議録)英語教育に関していえば、指導形態や第二言語習得における個人差要因と関係づけて扱うことも可能であろう。

## (会議録)

○いろいろな発達障害や特別支援の児童について知識を持っていてほしい。(会議録)

## まとめ

- ●学習指導要領・目標の理解が重要である。
- ●多様な児童についての理解が必要である。

# ③ 授業実践の大切さ

- ○初等調査で「学習指導要領改訂を受けて、扱うのが重要な内容(Q5)」を尋ねたところ、もっとも多かった回答は「模擬授業」続いて「指導形態」が挙げられた。このことから、授業実践の重要性が示唆されたと読み取ることができる。
- ○小学校英語教育は、歌やゲームだけではないことを強調したい。(有識者) 現状の外国語活動では、スキットの完成形を暗記することに終始している実践も多いが、① 児童の能動的な言葉とのかかわり(概要の把握・類推・気づきなど)が希薄、②「英語は覚えるもの」という言語観を与えかねない、③学校外で英語にふれている児童が優位になりがち、④英語特有のリズムと関係のないチャンツを多用しがちなどの問題がある。それでは本物の英語力にならない。(有識者)
- ○中学年と(教科としての)高学年の授業の違いについて取り上げていく必要がある。(有識者)
- ○ことばを使用する場面設定、必要感といったことを踏まえた指導を展開することが大切。(有 識者)
- ○評価に関する内容は、教員養成段階では理解の難しい内容であるという指摘があるが、卒業時に一人前の教師として指導にあたることを考慮すると、基礎的な評価に関する知識を身に付けることが重要である(会議録)。また、評価の内容については、実践的であることが望まれる。(会議録)
- ○実習だけでなく、教職に関する科目の中で、英語に関する授業を実際に参観する機会がある と良い(会議録)。
- ○単元での指導が設計できる力が必要。(会議録)
- ○ICT の活用も含めるべきである。(会議録)
- ○ALT の活用について、契約の仕方に地域差が出てしまうことがある。ALT との TT の在り方について、学ぶ必要がある。(会議録)
- ○カリキュラムの要素(授業時数、目標、目標達成のための学習内容、指導法、教材、評価) に関わる内容の理解は重要である。(会議録)
- ○小学校教員に話を聞くと、実践的なことを大学時代にやっておきたかったという声が多数あった。(会議録)

### まとめ

- ●単元のデザイン、ALT等とのティーム・ティーチング、教材・評価について実践的理解を深めることが重要である。
- ●模擬授業など実践的な経験が重要である。
- ●児童期にふさわしい授業実践ができる指導力が必要である。

# 小学校 教員養成コア・カリキュラム (試案) 項目

# (1-1)教職に関する科目(2単位程度以上)

### ◆目標

外国語活動・教科外国語の授業を実践するための指導力を身に付ける。

## ◆学習項目

以下の項目を、講義・授業観察や体験・模擬授業を通して身に付ける。

※なお、各項目は、基本的に必要な要素を示すもの。

①現在の小学校外国語教育についての知識・理解

教育課程での位置づけや導入の経緯等、現在の外国語活動・教科外国語についての基本的な知識や、学校・児童が抱える様々なニーズへの対応のあり方を理解すること、また、外国語教育において小学校が担う役割を明確に理解することを通して、自らの授業実践を支える枠組みのイメージをつかむ。

- (1) 外国語教育導入の経緯・現状、学習指導要領(小学校・中・高等学校外国語科)
- (2) 主教材(教科書やデジタル教材など)
- (3) 小・中・高等学校の英語教育における連携と校種ごとに期待される役割
- (4) 多様な学校・児童のニーズへの対応のあり方

## ②子どもの第二言語習得についての知識・理解

外国語学習の主体である子どもがどのように学び、対象であることばがどのように学ばれるのか、その特徴を理解することは、指導法の根幹をなす重要な部分である。これらの知識によって、効果的な指導が可能になり、中学校以降の学習との連携がスムーズに行われることが期待される。

- ア. 子どもの学び方の特徴の理解
  - (1) 言語使用を通して言語習得へ・類推から理解へ
  - (2) 音声に対する敏感さ
- イ. ことばの学ばれ方の特徴
  - (1) 国語科教育との連携によることばへの気づき
  - (2) 意味内容重視
  - (3) 受信から発信、音声から文字へ

## ③授業実践

### ア. 指導技術

上記①②で得た知見を具現化する指導技術を身に付けることを目指す。特に小学校では、子どもが音声言語受容の段階を十分に経験することが重要であり、英語での効果的な語りかけ方を身に付けることを重視する。

- (1) 英語での語りかけ方
- (2) 児童の発話の引き出し方・児童とのやりとりの進め方

(3) 文字言語の与え方・読む活動・書く活動への導き方

# イ. 授業づくり

上記①②で得た知見をもとに、ティーム・ティーチングや短時間学習など多様な指導環境でも授業設計ができるような指導力を身に付ける。年間指導計画を構成する単元、単元を構成する1時間の授業、1時間の授業を構成する活動、それぞれを設計する視点を持ち、指導案作成へとつなげる。

- (1) 題材の選定・教材開発の仕方
- (2) 年間指導計画・単元構成・1 時間の授業構成・様々な活動・指導案作成 の仕方・短時間学習等の設定
- (3) ティーム・ティーチングによる指導のあり方
- (4) 教材・ICT の活用の仕方
- (5) CAN-DO リスト形式の学習到達度目標と評価の活用

## ④模擬授業

授業実践の PDCA サイクルについて、知識を得るとともに実践のイメージをつかむ。 課題意識をもって模擬授業に取り組むことで少ない機会の密度を上げる。また、クラスの受講者数によっては、運営の工夫が重要になる。グループでの実施、授業の流れを分担した実施等が考えられる。

- (1)授業設計
- (2)授業準備
- (3)授業実施
- (4) 振り返り
- (5)授業改善

#### \*上記に加え大学の裁量で扱うことが望ましい項目例\*

• 第二言語教授法

様々な教授法について知識・理解を深めることで、それぞれの指導環境にふさわしい 教授法を選ぶことにつながる。

・現職教員・指導主事の講話

外国語活動・教科外国語の現状や実践事例に触れることで、具体的なイメージを持つ ことにつながる。

・小学校における外国語教育の支援、ティーム・ティーチング等のボランティア参加(単位認定も含む)

補助的な役割を経験することで、自らの適性を見極めたり、大学で学んだことの検証を行ったりすることにつながる。

## ◆目標

外国語活動・教科外国語の授業内容の背景などとなる専門的な知識・技能などを修得し英語運用力を身に付ける。

# ◆学習項目

①英語コミュニケーション

小学校での授業実践に必要な英語力を、4 技能バランスよく身に付ける。平易な英語表現を十分正確に運用したり、分かりやすい発音やイントネーションで会話したりすることは 重要である。相手意識を持って話したり書いたりする経験を通して、伝わった自信を持た せることが重要である。

- (1) 聞くこと
- (2) 話すこと
- (3) 読むこと
- (4) 書くこと
- (5) 技能統合型の活動

## ②英語運用に必要な基本的な知識等

英語についての専門的な知識、異文化の知識、第二言語習得理論の知識等を得ることで、より高い英語運用力を身に付け、専門性の高い指導につなげる。座学に偏ることなく、マザーグースの朗誦や異文化交流など、実践を通して身に付ける。

- (1) 英語の基本的な音声の仕組み
- (2) 音声・語彙・文法の基本的な知識
- (3) 発音と綴りの関係
- (4) 第二言語習得理論の基礎
- (5) マザーグース・絵本・児童文学
- (6) 様々な国・地域の生活・習慣
- (7) 異文化交流

# \*上記に加え大学の裁量で扱うことが望ましい項目例\*

- コミュニケーション論
- ・日本語と英語の共通点・相違点
- 音声学
- ・英語で書かれた児童文学の歴史
- 英語によるプレゼンテーション

# 小学校英語コースで扱う項目案

# ◆目標

外国語活動・教科外国語の授業を実践するためのより高い指導力を身に付ける。

# ◆学習項目

- 1. 専門的な知識
  - (1) 第二言語習得論についての知識
  - (2) 音声学についての知識
  - (3) 第二言語教授法についての知識
  - (4) カリキュラムについての知識
  - (5) 教材についての知識

# 2. 専門的な指導技術

- (1) リスニングの指導
- (2) スピーキングの指導
- (3) リーディングの指導
- (4) ライティングの指導

## (2) 教員研修

初等調査で「現職教員研修に関しての取り組みについて(Q14,Q15)」、教育員会調査で「小学校教員を対象にした研修内容について(Q10,Q36)」尋ねたところ、英語力の向上と外国語活動関連の件数が重視されていることが明らかになった。しかし、その取り組み内容には大きな違いがあることから、以下に研修のコア・カリキュラム(試案)を提案する。

# 教員研修についての現状と課題

# (1) 求められる英語力について

## ① 教員の英語力向上の必要性

- ○教育委員会調査で「初等教員が採用時に身につけておくべき項目 (Q50)」で、「英語力」は中学校・高等学校教員ほど求められてはいないが、英語活動の早期化、教科化、入門期における良質なインプットの重要性を考えると、小学校教員の英語力の向上が求められると推測することができる。
- ○教育委員会調査(Q12)の結果から、英語力の向上を重要ととらえているのは初年次で83%、10年次で69%。
- ○中学校で学習する程度の文法の知識を身に付ける必要がある。教科化で、語順を扱うなど、文法や文構造にも踏み込むとのことなので、指導にあたり知識は必要であるし、教員が不安に思うところだと考える。 (有識者)
- ○クラスルーム・イングリッシュはもとより、"Hi, Friends!"で扱っている語や表現を自信を持って発音できる、発話できるという自信をつけることが必要。例えば、WHの疑問文の語尾は上がらず下げるというような基本的なことを踏まえ、自信をもって発話したり運用したりできるようにする。(有識者)
- ○小学校教員の中には、英語の苦手意識が強い人たちが多いと思われる。研修の中で英語力をつけていく必要がある。(会議録)
- ○クラスルーム・イングリッシュは英語に苦手意識のある小学校教員のよりどころとなっている。(会議録) 教員の自信が生まれる。(有識者)

#### まとめ

- ●教室で使用する平易な英語を運用する力をつけること重要である。
- ●クラスルーム・イングリッシュを研修で有効に扱うことが重要である。

## (2) 求められる指導力のさらなる向上について

#### ① 教員の指導力のさらなる向上の必要性

○授業での指導法や ALT とのティーム・ティーチング等について実践的な研修が必要だと考える。模擬授業 や、自身の学級での授業実践等も取り入れることで、より効果的な研修プログラムにしていくことが求め られる。(有識者)

- ○中学校の前倒しの授業をしてしまう教員が多くなるのではないかと危惧する。小学校英語のゴールやイメージを具体的に理解してもらう必要を感じる。 (有識者)
- ○教科になった時の具体的なイメージと「これなら私にもやれる」という思いを持てるような研修が必要。(有 識者)
- ○実践的・体験的な内容は参加者の評判が良い。(有識者)
- ○評価を切り口に、指導方法を扱うという研修もあり。研修のカリキュラムの中に評価を入れてほしい。付けてあげたい力を考えたときに、評価の観点が必要になってくる。また、児童の状態を適切に把握する力は重要である。(会議録)
- ○子どもの言語獲得についての理解が重要である。(養成との重複)
- ○暗記型の指導にならないことに留意することが重要である。(養成との重複)
- ○インプットの重要性を理解することが大切である。(養成との重複)

#### まとめ

- ●目標を理解すること及び、評価を扱うことは重要である。
- ●授業のイメージがわくような研修が有効である。
- ●子どもの言語習得についての理解が重要である。
- ●暗記型の指導にならないことに留意することが重要である。
- ●インプットの重要性を理解することが大切である。

# 小学校 教員研修コア・カリキュラム (試案) 項目

## 教職1~3年目

## ◆目標

児童の特性や発達段階、学校の特色に合わせて授業活動を行うための英語力・指導力を身に付ける。

# ◆研修で扱うべき項目

# 1. 英語力

英語に対する苦手意識が強い教員が英語を使う気になるように、自信につながる研修を行うことが重要である。短期間で上達するのは困難であり、地道に英語を使ったり練習したりするよう、意欲を高める工夫をすることが重要である。

(1) 発音や強勢、リズム、ピッチ、イントネーションを意識した会話ができる英語力

# 2. 指導力

授業を行うための核となる知識・技能を身に付けるため、考え方と実践面のバランスを考慮して研修を行う。実践的な内容を扱う際には、考え方と結び付けながら、それぞれの活動の意味を考えさせる内容にするなどの工夫が必要である。

- (1) 子どもの第二言語の学びの特徴
- (2) ことばの学ばれ方の特徴
- (3) 英語での語りかけ方
- (4) 児童の発話の引き出し方
- (5) 児童とのやりとりの進め方
- (6) 題材の選定の仕方・教材開発の仕方
- (7) 短時間学習等の設計
- (8) 単元構成・1時間の授業構成・様々な活動・指導案の作成の仕方
- (9) ティーム・ティーチングによる指導のあり方
- (10) 教材・ICT の活用の仕方

### 3. 授業研究

客観的に授業を参観することで、自らの実践と対比し振り返る機会となる。授業を参観する 視点を明確にすることで、課題意識が高まることが期待される。

(1)授業観察

# ◆目標

校内研修や公開授業等の中心的役割を担い、各学校での外国語教育の質の向上に貢献する。

## ◆研修で扱うべき項目

## 1. 英語力

自らの英語力の特徴を意識し、課題意識を持って向上に取り組む。児童の発話に対して注意を払い、必要に応じて誤りに気付かせる英語での働きかけを行えるようにする。教員が身に付けてきたクラスルーム・イングリッシュを、自信をもって使えるよう励まし、さらに子どもとのやりとりに発展するよう意欲を高めることが重要である。

- (1) クラスルーム・イングリッシュを土台に意味のあるやりとりができる英語力
- (2) 児童の発話や行動に対し、適切に対応できる英語力
- (3) 正書法・発音と綴りの関係の理解
- (4) ALT と授業について打ち合わせができる英語力

# 2. 指導力

文字言語や年間指導計画について、自らの実践をより広い視野でとらえるための知識や指導技術を身に付ける。音声の指導文字の指導へ、単元計画から年間計画へと研修のトピックを広げながら、小学校での指導の先に続く中・高等学校での英語教育についてのイメージをつかむことが重要である。

- (1) 教材開発の仕方
- (2) 音声・語彙・文法の基本的な知識
- (3) 文字言語の与え方・読む活動・書く活動への導き方
- (4) 意味のある活動のデザイン
- (5) 年間指導計画の作成の仕方
- (6) CAN-DO リスト形式の学習到達目標と評価の活用
- (7) 小中高の英語教育における連携と校種ごとに期待される役割
- (8) 第二言語習得理論の基礎

### 3. 授業研究

十分準備した授業を公開することで、日常の授業実践では見過ごしがちな事柄を再発見することができる。参観者のコメントを通して、授業改善の視点を得ることができる。

- (1)授業公開
- (2)授業改善

## ◆目標

英語力・指導技術をさらに磨き、メンターとして後進の指導にあたる。

# ◆研修で扱うべき項目

# 1. 英語力

相手の言っていることを理解し、自分の伝えたいことが伝えられる英語力を目指す。定型表現にとどまらない表現・語彙を使用して会話する。

(1) 児童が理解できない英語を児童にわかるように言い換えることができる英語力

# 2. 指導力

授業改善の意欲を持ち、様々な環境で安定して高い指導力を発揮できるための知識・技術 を目指す。ことばへの関心を高め、豊かな言語経験を子どもに与える指導力を身につける。

- (1) 多様な学校・児童のニーズへの対応のあり方
- (2) 国語教育との連携によることばへの気づき

# 3. 授業研究

自らの英語力・指導力をさらに伸ばす努力を続けるとともに、校内・地域内の若手教員の成長をサポートする役割が期待される。

(1) 公開授業等の企画・運営

## (3) 教育職員免許法 認定講習(中学校英語教員)に加え必要なもの(2単位程度)

小学校教科化に向けた学校の中核となる教員に対して、より専門性の高い英語力・指導力が期待されている。中央教育審議会・教員養成部会の答申(平成27年12月)においては、「小学校教員が教科化に向けた専科指導や小・中・高等学校の一貫した学びの接続に留意した指導に当たることが可能となるよう必要な研修を充実するとともに、「免許法認定講習」の開設支援等による小学校免許状と中学校英語免許状の併有を促進する必要がある」との指摘がなされている。国においても、平成28年度より国の事業として「小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施」が予定され、小・中学校の学びの円滑な接続を図ることを前提に、中学校の学習内容を理解し、教科についての専門的知識を有する教員を各小学校に計画的かつ段階的

されている。 このため、小学校において系統的な教科指導に当たる英語力・指導力のある教員を段階的に育成するために必要な認定講習のモデルのカリキュラム案を提案する。

に配置し、校内の教科化に向けた準備・校内研修の企画・運営、教材研究などを行うことが期待

## ◆目標

外国語活動・教科外国語の授業を実践するための指導力を向上させる。

## ◆学習項目

以下の項目を、講義・授業観察や体験・模擬授業を通して身に付ける。

# 1. 子どもの第二言語習得についての知識・理解

教員としての経験と結び付けながら、子どもの第二言語習得の特徴について整理する。子どものことばの学び方の特徴を生かす指導法のあり方について考え、実践することが重要である。

- (1) 子どもの学び方の特徴の理解
  - ・言語使用を通して言語習得へ
  - ・類推から理解へ
  - ・音声に対する敏感さ
- (2) ことばの学ばれ方の特徴の理解
  - ・国語教育との連携によることばへの気づき
  - · 意味内容重視
  - ・受信から発信、音声から文字へ

### 2. 現在の小学校外国語教育についての知識・理解

ここでは特に、小・中・高等学校の英語教育の中で小学校が果たすべき役割について理解を 深め、英語教育の大きな流れのイメージをつかむことが重要である。各校種の役割を把握す ることで、小学校の実践の中で、適切にゴールを設定できることが期待される。

- (1) 小学校外国語教育
  - ・小・中・高等学校の英語教育における連携と校種ごとに期待される役割

### 3. 授業実践

# (1) 指導技術

音声でのやりとりからスタートする小学校の授業実践においては、子どもに語りかける技術がことのほか重要である。児童理解ができている教員としての経験を活かし、丁寧に聞かせる工夫や、言語外情報を適切に与えながら理解させた気にさせる技術を磨く。その上で、子どもからの自然な発話を引き出す根気強さも要求される。

- ・英語での語りかけ方
- ・児童の発話の引き出し方
- ・児童とのやりとりの進め方
- ・文字言語の与え方
- ・書く活動への導き方

# (2) 授業づくり

いろいろなタイプの授業づくりに実践的に取り組むことを通して、実際の授業での 実践のイメージをつかむことができる。下記の項目を均等に扱うのではなく、受講 者のニーズに合わせた取り組みを行うなど、柔軟な授業運営を行うことも可能であ る。

- ・題材の選定の仕方
- ・年間指導計画・単元構成・1 時間の授業構成・様々な活動・指導案作成の仕方・短時間学習の設定
- ・ティーム・ティーチングによる指導のあり方
- ・教材・ICT の活用の仕方
- ・CAN-DO リスト形式の学習到達目標と評価における活用

#### 小学校 教員養成コア・カリキュラム構造図 (試案)

#### 教員養成プログラムの全体目標

- ・授業設計と指導技術の基本を身に付ける。
- ・小学校において外国語活動・外国語(英語)の授業ができる 英語力・指導力を身に付ける。

# 児童が外国語教育において身に付けるべき資質・能力 (中央教育審議会外国語ワーキンググループ資料より)

#### 個別の知識や技能

#### 外国語活動

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを 体験すること
- ・外国語を聞いたり、話したりすること
- ・外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ

#### 外国語

- ・聞くことに関する知識・技能
- ・話すことに関する知識・技能
- ・外国語を読んだり、書いたりすること
- ・言葉の仕組みへの気づき(音、単語、語順など)

#### 思考力·判断力·表現力等

#### 外国語活動・外国語

- ・簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りの ことについて、友達に質問したり答えたりするコミュ ニケーション能力
- ・馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、 一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答 えたりするコミュニケーション能力

#### 学びに向かう力、人間性等

#### 外国語活動・外国語

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽し さや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さ を知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケ ーションを図ろうとする態度
- ・言語や文化に対する関心 など

# 教職に関する科目の授業内容と方法

#### 現在の小学校外国語教育についての知識・理解

- ・外国語教育導入の経緯・現状、学習指導要領 (小学校・中高等学校外国語科)
- 主教材(教科書やデジタル教材など)
- ・ 小中高の英語教育における連携と校種ごとに 期待される役割
- ・ 多様な学校・児童のニーズへの対応のあり方

#### 子どもの第二言語習得についての知識・理解

#### 子どもの学び方の特徴

- ・ 言語使用を通して言語習得へ・類推から理解へ
- ・ 音声に対する敏感さ

#### ことばの学ばれ方の特徴

- ・ 国語教育との連携によることばへの気づき
- · 意味内容重視
- ・受信から発信、音声から文字へ

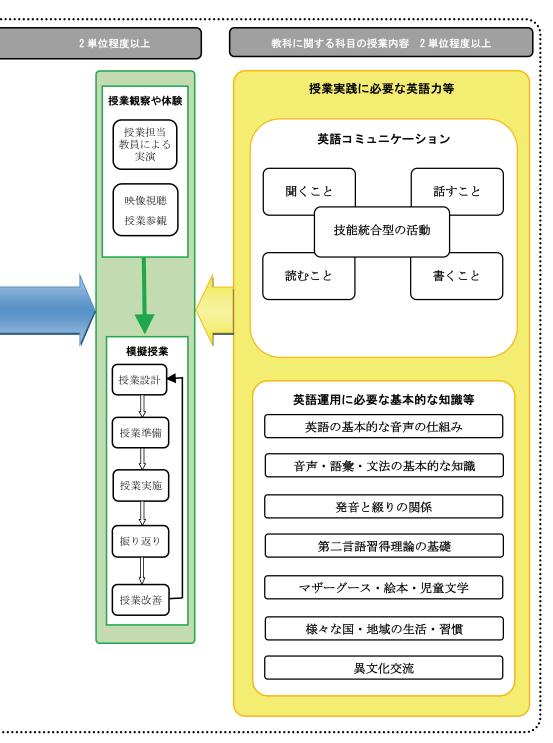
### 授業実践

#### 指導技術

- ・ 英語での語りかけ方
- ・児童の発話の引き出し方・児童とのやりとりの進め方
- ・ 文字言語の与え方・読む活動・書く活動への導き方

#### 授業づくり

- ・ 題材の選定・教材開発の仕方
- ・年間指導計画・単元構成・1時間の授業構成・様々 な活動・指導案作成の仕方・短時間学習等の設定
- ティーム・ティーチングによる指導のあり方
- ・ 教材・ICT の活用の仕方
- ・ CAN-DO リスト形式の学習到達目標と評価における活用



※教職に関する科目・教科に関する科目の授業内容は、取り扱う要素を示している

# 小学校 教員研修コア・カリキュラム構造図 (試案)

児童が外国語教育を通して身に付けるべき資質・能力 (中央教育審議会外国語ワーキンググループ資料より)

## 個別の知識や技能

### 外国語活動

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること
- ・外国語を聞いたり、話したりすること
- ・外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ

#### 外国語

- ・聞くことに関する知識・技能
- ・話すことに関する知識・技能
- 外国語を読んだり、書いたりすること
- ・言葉の仕組みへの気づき(音、単語、語順など)

#### 思考力·判断力·表現力等

#### 外国語活動·外国語

- ・簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りの ことについて、友達に質問したり答えたりするコミュ ニケーション能力
- ・馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、 一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答 えたりするコミュニケーション能力

### 学びに向かう力、人間性等

#### 外国語活動·外国語

- ・外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽し さや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを 知り、相手意識を持って外国語を用いてコミュニケー ションを図ろうとする態度
- ・言語や文化に対する関心 など

# 教職に関する科目

# 指導力

# 指導に必要な知識・技能

子どもの第二言語の学び方の特徴 ことばの学ばれ方の特徴 英語での語りかけ方 児童の発話の引き出し方 児童とのやりとりの進め方 題材の選定・教材開発の仕方 短時間学習等の設定 単元・1時間の授業構成・様々な 活動・指導案の作成の仕方 ティーム・ティーチングによる指導のあり方 教材・ICTの活用の仕方

#### 教材開発の仕方

音声・語彙・文法の基本的な知識 文字言語の与え方・読む活動・書く活動 への導き方

意味のある活動のデザイン 年間指導計画の作成の仕方 CAN-DOリスト形式の学習到達目標

#### と評価における活用

小中高の英語教育における連携と 校種ごとに期待される役割 第二言語習得理論の基礎

多様な学校・児童のニーズへの対応の あり方

国語教育との連携によることばへの 気づき

# 教科に関する科目

教員養成

# 英語力

教員採用

# 授業研究

授業観察

発音や強勢、リズム、ピッチ、 イントネーションを意識した 発話ができる英語力

# 1~3年目

児童の特性や発達段 階に合わせて授業を 行うための英語力・ 指導力を向上させる。

授業公開 授業改善 クラスルーム・イングリッシュを土台に意味のあるやり取りができる英語カ児童の発話や行動に対し、適切に対応できる英語カ正書法・発音と綴りの関係の理解

ALTと授業について打ち合わせができる英語力

4~9年目

英語力・指導力を磨き、校内研修や公開授業等の中心的役割を担い、各学校での外国語教育の質の向上に貢献する。

公開授業等の企画・運営

児童が理解できない英語を、

児童にわかるように言い 換えることができる英語力

# 10年目以降

英語力・指導力をさらに磨き、メンターと して後進の指導にあ 、たる。